

第 1 回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会の主な意見

- 地方創生がこの街にとって産業、にぎわいの面においても、今まさに重要な時期であるという認識をもっと街なかでされるべき。
- この街は製鉄と共に発展してきたので、やはりこれが一番再生の元になるとだろう。当然、一次産業的なもの、それから派生した二次産業、三次産業などの産業がいかにかこの街で振興されるかだと思う。
- 企業が北九州から離れていかないように、北九州で仕事をするメリットをしっかりと考えていかなければならない。
- 北九州の良さをマスコミなどに上手く投げ掛けてもらいたい。また、災害のない住みやすい北九州を戦略的にPRし、全国の企業に来てもらいたい。
- 北九州市は、データにも表れているように子育てがしやすいまちで、その他にも通勤の快適さ、マンションや一軒家の住居選択の豊富さ等、東京や福岡市に比べて優位な点があるので宣伝していくべきである。
- 一方、東京や福岡市と同じことをするのではなく、北九州市独自の価値観を活かした戦略で人口や仕事を増やしていけるはず。
- 東京の一極集中よりも、福岡市の一極集中を考えるべきで、北九州市独自の価値観を創出し、宣伝していくべきである。
- クオリティー国家と言われている国々ですぐれも地方主権、道州制に近いような仕組みがなされており、これがどこまで推進できるかということで北九州が成功モデルをつくって、地域あるいは国の内外に知らせることが必要。

- 北九州の持ち味、強みを活かしながらも、世界から注目されるようなイノベーションを起こし続けて、ハイクオリティなグローバルシティを実現してもらいたい。具体的には、1つはグローバル立地企業を100北九州市につくること、2つは高度人材の推進ということで産業人材育成を行うことが非常に大事である。
- アジアに近いことや来年完成予定の東九州自動車道、北九州空港といった強みを最大限活かしていくかが重要であり、注目されているスマートビット、エコタウン、リノベーション等とリンクされた北九州の情報を全国的に展開できれば人が集まり、中小企業ひいては北九州の活性化につながるのでは。
- 様々な仕組みができたとしても、国に要求することだけではなく、一人一人が本当に責任を持った行動をするということが問われている。
- 安心して子どもが産めるような社会環境をつくるための対策を行うにしても、人口減により潤沢な税収が保証されないことが前提となる。
- 北九州市立大学では、地域の創生と再生を担う人材の育成を目的として6年前に地域創生学群を設立したが、この学群の生徒は3割が地域に残っている。これは1年生のときから課題解決型の授業で地域の人と一緒に課題を発見しながら学ぶことでシビックプライドが生まれて定着しているためではないかと考える。
- 平成27年度には地域の知の拠点に大学を据える「COC+」という施策がスタートするため、本学も「オール北九州」という視点のなか、市や小中高と連携してチャレンジしていく。
- 九州工業大学では、特定の分野で日本の将来に関わるような人材を輩出することで企業の研究部門を呼び込む取り組みを行い企業誘致に成功した。現

在はさらなる就職先の確保のため国の中核となる知的部門の呼び込むための議論を行っている。

- 北九州市には世界的な技術力の基盤があり、その強みを活かしていかなければならない。また、北九州の技術力を活かすため、世界の様々な国の研究機関と連携を増やしている。
- 北九州には大きな3つの特徴があると考えている。1点目はロボット、環境や自動車等の世界トップの技術、2点目はスタジアム建築等によるまちづくりの好機、3点目は本協議会等の先進的な取り組みである。今後は様々な議論を通じ、融資や投資を通してこのプロジェクトに参画していきたい。
- 現在取り組んでいる産業人材育成の地域のシステムづくりを目指す、北九州地域産業人材育成フォーラム運営や北九州の小中学校の活性化するための「北九州の企業人による小中学校応援団」の編成等を通して、地域活性化に貢献していきたい。
- 賃貸アパートについては人口の減っている地域では、厳しいものがあるが、北九州についてはそれほど顕著に厳しいということはないという印象である。
- 福岡の天神にあるきらめき通りでは、土日には渋谷並に若い人が集まる。消費能力が高いわけではないが、活気を生み出しているように感じる。
- 人口減少のため地方銀行や地域金融機関にとっては非常に厳しい状況ではあるが、我々は規模を拡大し成長するために努力している。
- 新日鐵の高炉が解体となった場合は、防災面の良さやインフラ整理の利点を活用して、行政とタイアップしながら、ぜひ企業誘致をしてほしい。
- NHKは国際放送も強化していくため、地方の魅力をニュースバリューという付加価値を付けて発信することができる。

- 北九州市の利点である交通の結節点であること、アジアに近いこと、工業技術の蓄積が大変あるということ、素晴らしい歴史と文化を蓄えていること、そして住みよいまちであることを報道機関として全国に発信していきたい。
- 北九州市は他の政令指定都市に比べて公共投資額が多いが、オールジャパンで活躍できる建設業・建築業がない。
- 福岡県内には北九州以上に厳しい状況の市町村があり、その住民と十分意見交換を行って反映しながら、県の人口ビジョンや戦略の作成を進めており、今後は進捗状況や考え方等を示し、様々な意見を聞きながら福岡県の人口ビジョンや戦略に活かしていく。
- これから到来する少子高齢化問題、さらにこれらの見守り活動、安全・安心なまちづくりの構築についても取り組みを強化していかなければならない。
- 今回の「まち・ひと・しごと創生」の考え方では、北九州市の強みや弱みが明確になっており、私どもの会でも勉強し、また各区に伝えていきたい。
- 子育てのために首都圏から帰ってきた経験からも、「まち・ひと・しごと」について一緒に考えていきたい。